

概要報告

CITES 掲載種分類学能力構築

(1) 開催概要

1. 開催日時：令和2年2月25日～2月28日
2. 開催場所：フィリピン・マニラ
研修生：インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス、フィリピン、モンゴルから計18名
3. 講師（3名）：
【CITES 専門家】
 - ・ Rod Hay 氏（ニュージーランド、元 CITES 事務局職員）
 - ・ Esteven Toledo 氏（フィリピン、BMB）【爬虫類分類学専門家】
 - ・ Amir Hamidy 氏（インドネシア、LIPI）

(2) 研修の背景及び目的

東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ（ESABII ; East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative）の取組として、東・東南アジア地域を対象に、過去の業務成果を踏まえ、ワシントン条約（CITES）附属書掲載種の違法取引防止に必要な分類学能力構築のための講師養成研修（ToT ; Training of Trainers）を実施するものである。

豊富かつ貴重な生物多様性を有する ASEAN 地域及びモンゴルにおいてはその保全を推進するための人材育成が依然として不十分であり、加えて、自国で研修を実施できる人材を養成したいとの要望が ASEAN 各国等から多く寄せられていることから、本研修においては、研修を自ら計画・実施できるような講師を育成することを目的とする。

また、今年度の研修においては、爬虫類を中心とする CITES 附属書掲載種の違法取引防止に資するための講師養成研修を開催した。

1 日目

研修初日の開会式では、主催者である環境省生物多様性センターの齋藤佑介氏より、有意義な研修になることを期待するという旨が述べられ、また、配布した ESABII のパンフレットを用いて本研修の目的や研修後に参加者に何を期待するかについても触れ、4日間の研修がスタートした。

開会式後、各講師および各参加者の自己紹介を行った。この自己紹介がアイスブレイクとなるよう、下記5点に触れながら行った。また、実際の講義に入る前に、各参加者の CITES

に係る理解度を事前に把握するため、Rod Hay 氏により研修前アンケートが行われた。

- ①出身国と名前
- ②所属先
- ③所属先での現在の主な業務内容
- ④どのような野生生物に興味・関心があるか
- ⑤本研修へ何を期待しているか

初日の研修前半では、CITES の一般的な知識の教授に焦点をあてた。CITES 専門家の Rod Hay 氏による講義では、CITES とは何かという基礎知識から始まり、CITES の法的必要条件 (Legal Requirements) や科学マネジメント (Science Management) など、法制度の概要や CITES 附属書についての説明がなされた。

後半では、開催国であるフィリピンの違法取引対策に携わっている Esteven Toledo 氏より、現地での CITES に係わる違法取引の現状についての解説があった。ケーススタディとして、通関等の各所における実際に摘発された事例についても紹介された。

2 日目

本研修の主要テーマである爬虫類についての識別能力育成のため、フィールド実習としてマニラ市内にある野生生物レスキューセンターを訪問した。「Ninoy Aquino Parks & Wildlife Center」という正式名称であり、ニノイ・アキノ・パーク内に野生生物レスキューセンターがある。2名の施設担当者より、それぞれ次のような説明を受けた。まず施設担当者である Fides Sandoval 氏より、ニノイ・アキノ・パークの概要および野生生物レスキューセンターについての説明を受けた。そののち、パーク内を案内してもらいながら、施設内の動物についても実際に観察しながらの説明があった。

次の施設担当者である Glenn S. Maguod 氏より、野生生物レスキューセンターについての説明および施設内案内をされた。ここでは、実際に動物を観察しながら説明を受け、また動物病院内にも案内をもらった。

ホテルに戻ってからは、最終日に行われるグループプレゼンテーションについての説明が Rod 氏よりあった。実際に自国に戻った後、どのように研修を計画・運営するのかについて、基本的な準備の仕方・トピックの選び方・視点・資料などが紹介された。今回は、18名の参加者を6人組み3グループに機械的に分け、グループディスカッションを行った。

3 日目

最初の講義に入る前のイントロダクションとして、Rod 氏より識別について簡単な概要紹介があった。そののち、本研修の主要テーマである爬虫類に関する講義として、爬虫類の専門家である Amir Hamidy 氏より爬虫類の観点から、CITES 全般、附属書、識別それぞれについての講義が行われた。前日のフィールド実習地で実際に見た爬虫類も紹介された。

午前中の後半では、東・東南アジア (インドネシア・フィリピン) の現状として、Amir 氏と Esteven 氏より各国の実態についての説明を受けた。

午後は、最終日に行われるグループプレゼンテーションに向けた準備として、グループディスカッションが行われた。最後には、各グループの進捗状況の報告を行い、最終日に向けてそれぞれに全講師からアドバイスが与えられた。

4 日目

研修最終日となる 4 日目には、3 日間の研修内容を踏まえ、また、「識別能力」・「講師養成」という二つの柱をもって実施された本研修の目的を踏まえ、講師より与えられた下記の 3 トピックを踏まえたプレゼンテーションが 3 グループより行われた。

①Species Identification

②Investigation and Enforcement

③Non-detriment findings and Significant Trade Review

これは、将来的に参加者が自国にて計画・運営する研修の運営シミュレーションプログラムの具体的策定を目的としている。今回の研修で学習した内容や実際に講師が行った講義方法を踏まえ、3 グループに分かれて研修プランを検討・作成し、プレゼンテーションソフトを利用して発表を行った。その後、参加者からのコメントや質疑応答を行い、講師を務めた専門家からの指摘や助言、提案などによって、より実施具体性をもたせる議論が行われた。

最後に、講師を務めた全専門家が研修のまとめを行うとともに、参加者に対する今後の期待が述べられた。また Amir 氏からは、CITES に関する違法取引について、各国が現在抱えている課題について各参加者より述べ合うよう提案があり、各国の現状を共有することで理解を深めた。

閉会式では、主催者である環境省生物多様性センター・齋藤氏より、同センター長の代理として全参加者に対して研修終了証が授与された。その後、齋藤氏が挨拶し、講師および派遣機関等の協力者への謝辞を述べたのち、すべての研修生に対し、今回の研修内容および資料を有効活用し、自国において今後、講師として活躍することを強く希望すると述べた。

また最後に、本研修で使用された教材、講義資料および写真等を電子データとして保存された USB を配布し、本研修全日程が終了した。



講師による指導



質疑応答



グループワークの様子



グループ別発表



フィールド実習



集合写真